

ダム下流浸水想定図 説明文

名取川水系釜房ダム下流浸水想定図（ダム地点想定最大規模）

1 説明文

- (1) この図は、名取川水系碁石川に位置する釜房ダム下流の〔釜房ダム下流～名取頭首工〕区間について、釜房ダムで異常洪水時防災操作を実施するような規模の降雨による浸水想定範囲、及び浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。
- (2) この浸水想定図は、令和2年3月時点の名取川の河道及びダムの整備状況を勘案して、釜房ダム地点において想定し得る想定最大規模の降雨により釜房ダムで異常洪水時防災操作を実施した場合のダム下流碁石川及び名取川沿川の浸水状況をシミュレーションにより予測したものです。
- (3) なお、このシミュレーションの実施にあたっては、ダム下流碁石川以外の河川の氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨による氾濫、内水による氾濫等を考慮していませんので、この浸水想定が示されていない範囲においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

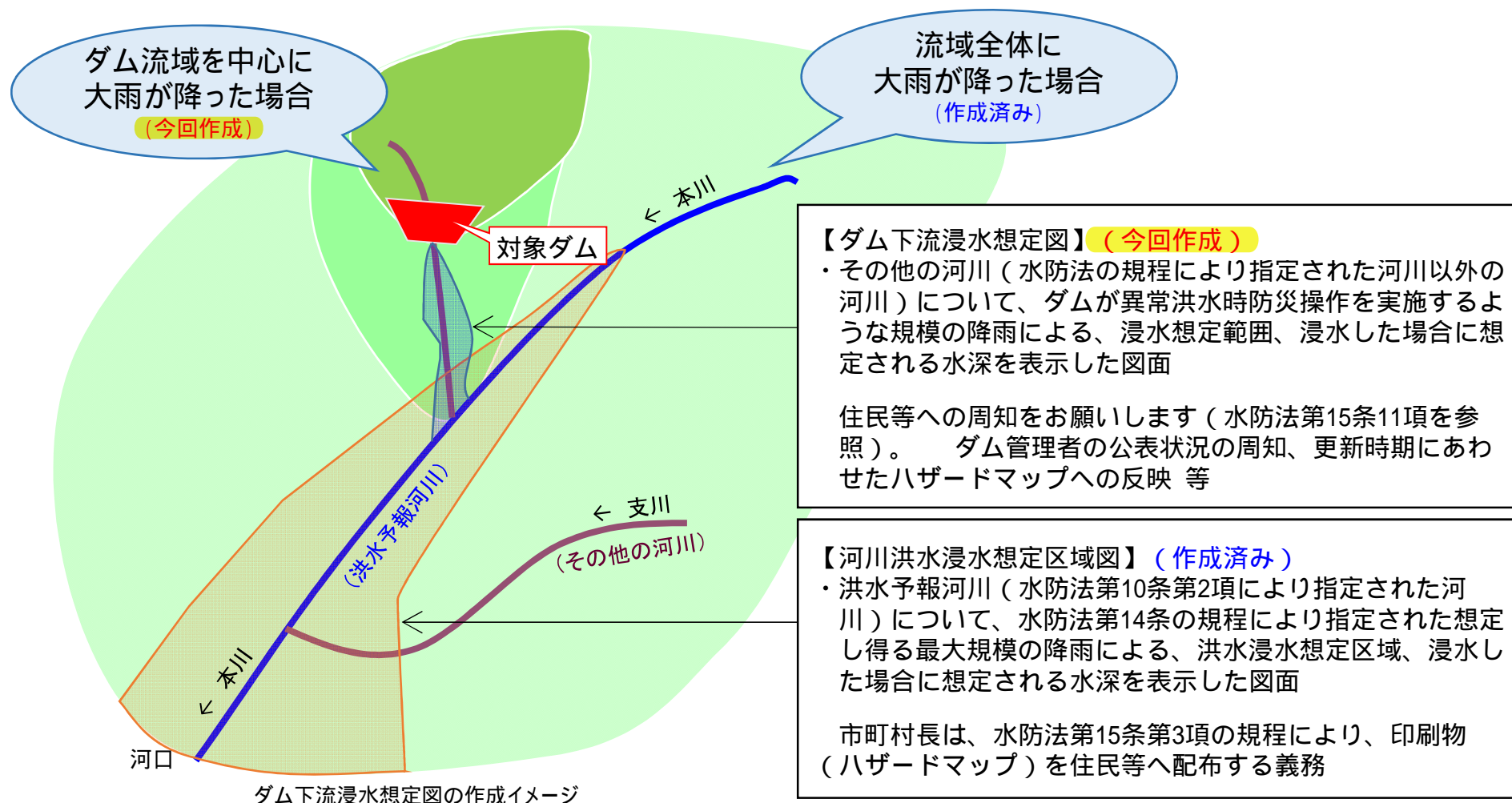
2 基本事項等

- | | |
|----------------|-----------------------|
| (1) 作成主体 | 国土交通省 東北地方整備局 釜房ダム管理所 |
| (2) ダム管理者 | 国土交通省 東北地方整備局 釜房ダム管理所 |
| (3) 河川管理者 | 宮城県 |
| (4) 表示年月日 | 令和2年 3月 |
| (5) 作図の前提となる降雨 | 釜房ダム流域の48時間総雨量734mm |
| (6) 関係市町村 | 川崎町、仙台市、名取市 |

ダム下流浸水想定図の作成について

作成の背景

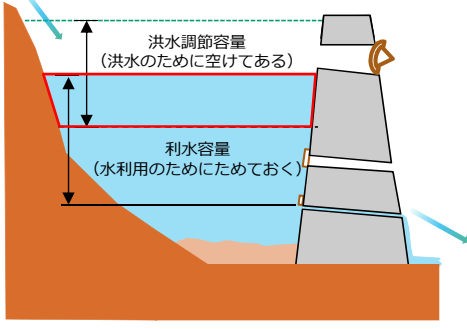
- 平成30年7月の西日本を中心とした広い範囲で記録的な豪雨、令和元年10月の台風19号による東日本を中心とした記録的な豪雨により、全国各地で甚大な洪水被害が発生しました。
- これらの洪水において、国土交通省所管の14ダムでは、洪水調節容量を使い切る見込みとなり、ダムへの流入量と同程度の放流とする異常洪水時防災操作に移行しました。
- 今後、気候変動の影響等による異常豪雨の頻発化が懸念される中、ダムの施設規模を上回る洪水時の円滑かつ迅速な避難の確保等を図るため、今回、ダム管理者では、ダム下流河川が氾濫した場合の浸水想定図を作成しました。



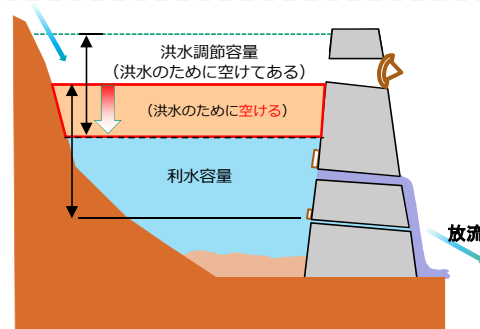
- 洪水が予測された場合、事前に水位を低下。
- 洪水で「もうすぐ満水」となる場合、流入と同じ量の放流を行う「異常洪水時防災操作(④)」を実施。

雨が降る前

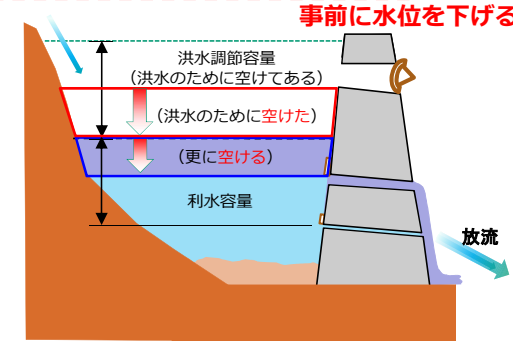
① 平常時



②-1 予備放流

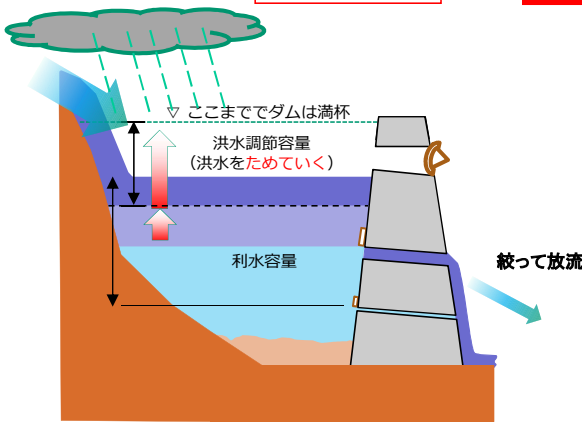


②-2 事前放流

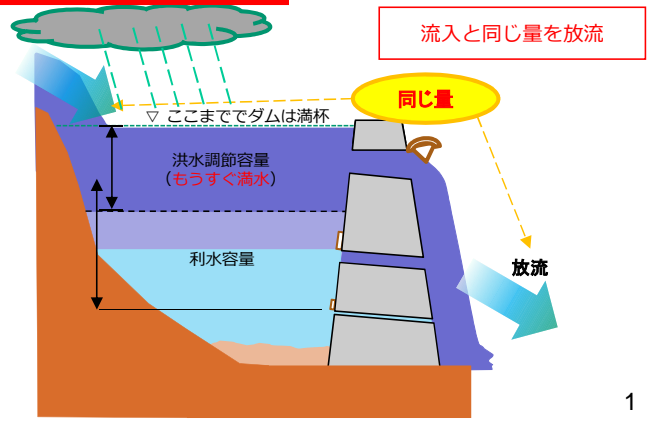


雨が降っている

③ 洪水調節

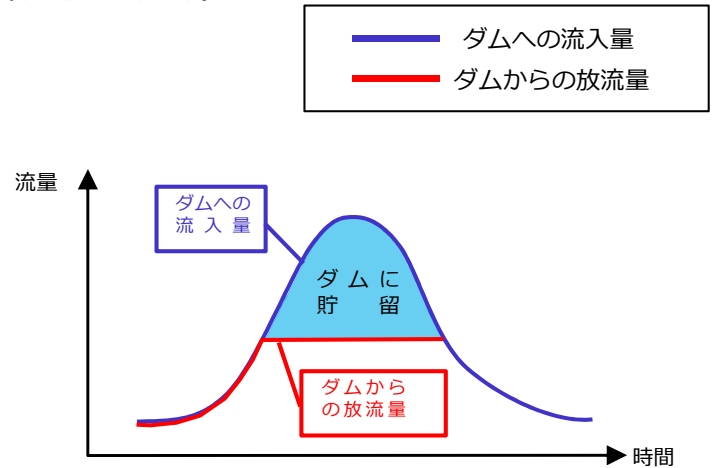
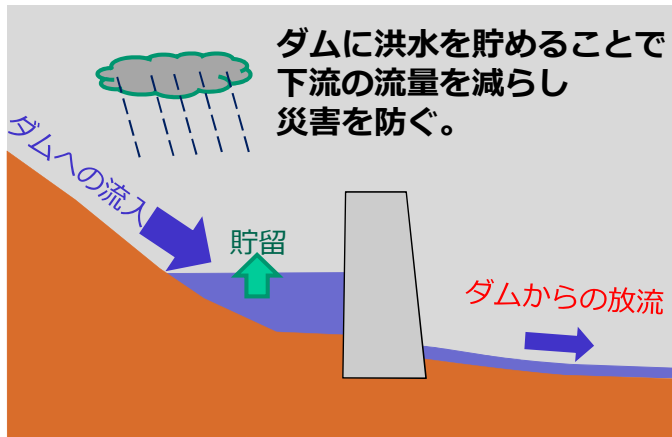


④ 異常洪水時防災操作



ダムの異常洪水時防災操作

通常の防災操作 (洪水調節)



異常洪水時防災操作

